

1 学校教育目標
あい あしのこ 「学びあい・みとめあい・みがきあい」

5 総括表

2 学校経営ビジョン

(1) めざす学校の姿

明るく、楽しい学校	いきいきと活動する学校	安全で、安心な学校
-----------	-------------	-----------

(2) 教育目標達成のための基本方針

「確かな学力」の保証	「心の教育」の充実	「生きる力」の育成	「開かれた学校」づくり
○「読み・書き・計算」等の基礎力の育成 ○基本的学習習慣の定着 ○学びあい等指導方法の工夫 ○小中連携による学力向上(小中一貫に向けた研究) ○家庭学習の充実	○道徳教育・人権教育の充実 ○教育相談、特別支援教育体制の充実 ○人としての「あいうえお」の育成 ○「あいさつ」「ことばづかい」の指導	○基本的生活習慣や規範意識の育成 ○命・健康・安全教育の推進 ○体験的活動や勤労奉仕的な活動の実践	○情報発信と収集 ○家庭(P.T.A)・学校評議員・地域諸機関との連携(学校地域夢つなぎたいの活用) ○学校評価の改善と公表

めざす教師の姿(教育あい)	めざす子どもの姿(自分あい)	めざす家庭の姿(子どもあい)
☆笑顔と活気のある教師 ☆一人一人の子どもたちを大切に する教師 ☆指導力の向上に努め、創造性 豊かな教師 ☆信頼される教師	◎ あ かるく、礼儀正しい子ども ◎ し っかり学びあい、考える子ども ◎ の びのびと、たくましい子ども ◎ こ まったときは、助け合う子ども	◇基本的生活習慣(芦刈家庭教育指針)の育成に取り組む家庭 ◇子どもの「安らぎの場」としての家庭づくり ◇積極的な来校と連携・協力を する保護者(学校ボランティア活動等)

3 本年度の重点目標 : 4 前年度の成果と課題

<p>1 「確かな学力」 - 基礎基本の定着と学力の向上</p> <p>2 「心の教育」 - 教育相談の体制作りと充実</p> <p>3 「生きる力の育成」 - 基本的な生活習慣、学習習慣の定着</p> <p>4 「開かれた学校」 - 家庭・地域・保護者との連携</p>	<p>1 「確かな学力」- 基礎基本の定着と学力の向上 全国や県の学習状況調査等の結果では全国平均を上まわっており、学力向上の目標を達成できたと考えられる。また結果を分析すると読解力や知識を活用する力にやや課題がある。来年度ものびのびタイムや習熟の時間など基礎的な計算力を身につける学習とともに、考える授業づくりに力を入れ、個に応じたきめ細かな指導を継続する。</p> <p>2 「心の教育」- 教育相談の体制作りと充実 学習や生徒指導面での支援、家庭に問題のある児童への支援、その他支援が必要な児童への支援など、校内での支援体制の確立を図る。教育相談等の定例研修会をはじめ職員が情報を共有して取り組む。また、保護者が来校して相談をし易い雰囲気づくりや保護者の声を聞く機会を増やして耳を傾ける体制づくりをする。</p> <p>3 「生きる力の育成」- 基本的な生活習慣、学習習慣の定着 基本的な生活習慣や学習習慣の定着なくして学力向上はない。芦刈地区で取り組む「家庭教育指針」の振り返り表の取り組みにより家庭との連携をさらに進める。また、向上目標ではなく具体的な達成目標を掲げて学習指導・生活指導をさらに充実させる。</p> <p>4 「開かれた学校」- 家庭・地域・保護者との連携 「学校だより」「小中一貫だより」「きめ細かな指導だより」「学級通信」等の発信により保護者に情報を伝える。引き続き多数の参観者を得られるように取り組む。学校支援ボランティアの活動の充実により、地域への学校公開と本校教育の充実を図る。</p>
---	---

5 総括表			
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標 具体的方策
①「確かな学力」基礎基本の定着と学力の向上			
教育活動	●学力向上	基礎・基本の定着と確かな学力の向上	<p>「読み、書き、計算」力の育成 CRT(算数)3観点(関心・意欲・態度除く)で全国比2ポイント以上をめざす。教師の授業力を向上させる。</p> <p>現在の豊かな個人読書量を維持する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特設タイム(読みときタイム、のびのびタイム等)を設定し、読書の習慣化、話す力、読解力、計算力の向上をめざす。 ・少人数やTT等指導形態の利点や特性を生かして、児童一人一人に応じたきめ細かな指導を單元ごとに実施する。 ・「学びのプロセス」をもとに、児童が主体的に取り組み・考える授業を日々実践する。 ・講師招聘による(年4回)理論研究会を行う。 ・各学年グループを中心に全員が授業を見せ合う等の実践研究を行う。 ・図書館の開館時間を7時50分とし、朝の利用促進を図る。平成22年度の貸出冊数一人平均100冊を維持する。
【成果と課題】 学校評価アンケートでは、保護者も児童も90%以上と昨年同様の高い評価だった。また、教師全員が授業力が向上したと答えている。これは、TTなどのきめ細かな指導やのびのびタイムや特設タイム等の継続した指導と児童一人一人に対応する毎日の取り組み、そして、教師全員が授業研究に真摯に取り組んできた成果と思われる。今後も継続していきたい。個人読書量は、貸出冊数一人平均104.66冊となり達成した。			【評価】 A 【理由】 ・具体的目標を達成し、さらに高い成果を挙げた。
②「心の教育」教育相談の体制作りと充実			
教育活動	●心の教育	教育相談・特別支援教育体制の確立	<p>SCの活用・保護者の相談回数を増やす。 配慮を要する子についての校内研修を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談だよりを定期的に発行し、保護者や児童への相談日を知らせ、SCの一層の活用を図る。 ・配慮を要する子についての教育相談研修会を年6回以上行う。また、指導の記録を記入する時間を設定する。 ・なかよしアンケートを5月と2月に実施し、子どもの実態を把握し、学級経営に活かす。 ・個別の支援計画に基づき、子どもサポーターの効果的な活用と具体的な支援体制・方法を探る。
【成果と課題】 教育相談研修会、配慮を要する子の情報交換会を定期的に行ったり、子ども支援センターやSC(スクールカウンセラー)との連携を図ったりすることができた。 人権集会・平和集会を実施したり、なかよしアンケートをとったりすることで子どもたちに人権意識・平和意識を高めることができた。 「学校が楽しい」と答えた児童が97%であり良い結果であるが、「相談する相手がいない」と答えた児童が20%あり、今後も気軽に話せる教育相談体制を整備したり、掲示コーナーを設置したりしていきたい。			【評価】 A 【理由】 ・教育相談研修会を定期的に開催し、SCの活用もできた。
	○道徳教育	道徳指導の充実を図る	<p>道徳の授業実践を充実させる。年間1回以上の授業公開。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フリー参観デー(6月、11月)のふれあい道徳を活用し、保護者・地域の人に授業を公開して授業改善に努める。
【成果と課題】 フリー参観デーのふれあい道徳(公開授業)を計画的に実施することができた。アンケートでも「命の大切さや思いやり」「ふれあい活動の充実」で高いポイントであり、成果が見られた。学年園や学校園の整備を計画的に行うことで花や野菜とのふれあいを子どもたちに味わわせることができた。また、緑の少年団も随時活動を行うことができ、全校児童にも緑化活動への関心をもたせることができた。これまで取り組んできた人権集会や今年度新しく取り組んだ「ぼかぼかの木」「ぼかぼかニュース」など、全校みんなで取り組むことができる活動を通して、今後も思いやりの心や命を大切に育てていきたい。			【評価】 A 【理由】 ・ふれあい道徳の取り組みや、ぼかぼかの木の取り組みなどできた。
③「生きる力の育成」基本的な生活習慣、学習習慣の定着			
教育活動	●健康教育	運動習慣の改善や定着化 望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	<p>週3日以上、休み時間に元気に遊ぶ児童が80%以上をめざす。 食に関する指導を各学年年間5時間以上行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動やあそびに使える用具(一輪車等)を児童が使いやすいように整備・設置する。 ・昼休みに体育館を利用できる日を週に一回設定し、運動したり遊んだりできる機会を確保する。 ・各学年の実態に応じて、学校栄養職員とのTTによる指導を年間1~2回行う。 ・親子おにぎり弁当作りや会食を設定し、保護者と児童

が共に食育について考える機会をもつ。(5月)

<p>【成果と課題】 (体育) 週に3日以上運動や遊ぶ児童は79%であり、目標をわずかに達成できなかった。これは、仮設校舎建築のため、運動場が狭くなったり、使用が制限されたりしたことも影響していると思われる。11月から体育館を学年割り当てで毎日開放していることで、引き続き取り組みを行っていききたい。また、各学級にサッカーボールとドッジボールと長縄を配布するなどして、外で遊ぶ機会が増えるよう引き続き啓発していききたい。 (食育) これからも引き続き、家庭科や総合的な学習の時間、学級活動等の時間に、食や食材に関する内容について、食育のことを意識しながら指導していく。給食週間や授業参観等で食について考える取り組みも継続していく。</p>	<p>【評価】 B</p> <p>【理由】 ・目標(80%)に対して(79%)であった。校舎建設中のため手狭なこともあったが、達成できなかった。</p>
--	---

<p>○生徒指導</p>	<p>望ましい生活行動様式の確立</p>	<p>共通理解に基づく生活指導を行う。挨拶の励行を計画的、重点的に行う。</p>	<p>・家庭教育指針のふり返しをする。(4月、6月、9月、10月、11月、1月、3月) ・挨拶の具体的な向上目標を学期ごとに決めて行う。1学期元気よく2学期進んで3学期心をこめて ・挨拶運動を運営委員会を中心に行う。(5月、9月)</p>
--------------	----------------------	--	---

<p>【成果と課題】 校内での立ち止まってする挨拶が定着してきている。特に朝の挨拶だけではなく、給食を取りに行く時や来客がある時にも進んで挨拶をしていた。立ち止まる挨拶で生活態度も落ち着いてきている。家庭教育指針の振り返りを実践して、基本的な生活習慣の意識付が定着してきている。ただ高学年になるにつれ「早寝、早起き、朝ごはん」を守れない児童がまだまだいるので、引き続き家庭に呼びかける必要がある。</p>	<p>【評価】 B</p> <p>【理由】 ・挨拶に関してはよいが、早寝、早起きは課題がある。</p>
--	--

④「開かれた学校」家庭・地域・保護者との連携

<p>学校運営</p>	<p>○開かれた学校作り</p>	<p>家庭・地域との連携強化</p>	<p>学校ボランティア人数(150人)と関わる授業等(15)を()内まで増やす。</p>	<p>・学校支援ボランティアの周知を進めることで登録者数の増加を図る。 ・学校支援ボランティアの人数増により支援可能な授業種類の増加と学校の受入態勢を広げる。</p>
-------------	------------------	--------------------	---	--

<p>【成果と課題】 本年度の学校ボランティアは「のびのびタイム(朝・年間)」「読み聞かせ(年間)」「野菜作り【10】」「海苔巻き体験【3】」「ミシン実習【10】」「安全確保(スケッチ会)【1】」「料理クラブ【1】」「書写【10】」「廃油せっけん作り【2】」「昔遊び体験【2】」「室町文化体験(水墨画)【2】」「和紙づくり【2】」である。【 】内は授業数。 12月末現在の登録人数は170人、関わっていただいた授業数等は43である。目標を十分に達成できた。学校支援ボランティアの活用も4年目となり、地域への学校公開、情報発信と本校の教育の充実に着実に成果を積み上げている。小中学校共同で発行している通信「つなぐ」では、毎回地域ボランティアの方に関わっていただいた授業について紹介することができた。</p>	<p>【評価】 A</p> <p>【理由】 ・登録人数は170人、関わった授業は43となり、目標を達成した。</p>
---	---

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

<p>学校運営</p>	<p>○学校経営方針</p>	<p>重点目標の周知</p>	<p>学校目標を覚えやすいと回答する割合を80%以上とする</p>	<p>・教育目標を「あいあしのご」とし、覚えやすくする。 ・児童や保護者が見やすい場所に掲示する。 ・職員会議(職員)、全校集会(児童)等で十分時間をとって説明する。</p>
-------------	----------------	----------------	-----------------------------------	---

<p>【成果と課題】 学校診断アンケートでは、学校目標について「よく知っている」49%、「だいたい知っている」40%、計89%であり、昨年の88%、一昨年の75%から高くなっている。また、教職員は全員が学校目標の具現化に向けて取り組んでいる。今後も学校の目指すビジョンを明確にし、保護者への啓発や協力の依頼、具現化への手だて等についてさらに工夫を重ねる。</p>	<p>【評価】 B</p> <p>【理由】 ・目標をクリアできたが「よく」の割合が低い。</p>
---	---

<p>特定課題</p>	<p>●小学校低学年の学習環境の改善充実</p>	<p>小学校低学年の指導に関する計画書の内容を達成する</p>	<p>低学年の基本的な学習習慣と基本的な生活習慣の定着をめざす。</p>	<p>・話型、聴型を活用し、低学年から話を聞く態度を徹底して身につけさせる。 ・生活ふりかえり表を作成する。低学年で共通した目標を設定し、基本的な生活習慣の定着を図る。</p>
-------------	--------------------------	---------------------------------	--------------------------------------	---

<p>【成果と課題】 「め(相手を見てきく)・みみ(最後まできく)・こころ(うなずきながらきく)」を低学年の聞き方とし、指導を徹底することができた。「目・耳・心」が合言葉となり、少ない声かけで態度を改めることができる子が増えた。また、「目・耳・心」で話す表を掲示したり、聞いている人が受け言葉などを使うようにすすめたりすることで、話し手も分かりやすく話そうという意識の向上が見られた。 学校で取り組んでいる家庭教育指針や毎日の生活の振り返り表で子ども達の生活・学習習慣を確認した。担任と保護者の連携体制で取り組むことができたので、基本的</p>	<p>【評価】 B</p> <p>【理由】 ・基本的な学習・生活習慣の定着はかなり良くなったが、まだ課題も残っている。</p>
---	--

生活・学習習慣の定着を図ることができた。生活・学習面で配慮が必要な子に対しては、サポーターと連携し、個に応じた対応ができた。 今後も、低学年で身につけさせたい力や態度を家庭・学校で共通理解を図りながらよりよい指導・支援を目指したい。		
○幼保小中の連携	幼保小中の連携の強化	・幼保と低学年児童の交流を3回以上持つ。 ・小学校教員による保育者体験と中学校との授業交流を計画的に実施する。
【成果と課題】 幼保の園児と低学年の児童の交流と小学校職員による保育者体験は、定例化しており今年度も実施して、幼保と小の共通理解に役立った。また、小中の連携については、小中合同の縦割り班によるあいさつ運動・なかよし給食・なかよしタイム・クリーン作戦に取り組んできたことで、児童も教師も小中の交流のよさを実感できるようになってきた。今後は、現在行っている交流活動を一層充実したものにしていくために、内容・計画等を見直し、改善していく。		【評価】 B 【理由】 ・小中一貫へ向かって連携は強化されたが、幼保小については課題もある。

6 総合評価

- 「確かな学力」－基礎基本の定着と学力の向上
全国や県の学習状況調査等の結果では全国平均を上まわっており、学力向上の目標を達成できたと考えられる。国語A、国語Bともに上回ったが、国語Bの方がより高くなった。国語への関心・意欲・態度も高まっている。文章量の多い資料から必要な情報を読み取ることなどにやや課題がある。算数A、算数Bについても全国平均を大きく上回ることができている。来年度ものびのびタイムや習熟の時間など基礎的な計算力を身につける学習とともに、考える授業づくりに力を入れ、個に応じたきめ細かな指導を継続する。
- 「心の教育」－教育相談の体制作りと充実
教育相談研修会、配慮を要する児童の情報交換会を定期的実施したり、小城市子ども支援センターやスクールカウンセラーとの連携を図ることができた。人権集会やなかよしアンケートを実施して児童に人権意識を高めることができた。
学校が楽しいと答えた児童が97%だが、相談する友達がいないと答えた児童もあることから、今後も気軽に話せる教育相談体制を整備したり掲示コーナーを設置したりしていきたい。
- 「生きる力の育成」－基本的な生活習慣、学習習慣の定着
基本的な生活習慣の定着のために、芦刈町内の、幼稚園、小学校、中学校で共通の「家庭教育指針」がある。本校では年間7回の「家庭教育指針強化週間」を設け、学校と家庭が連携して取り組んでいる。この取り組みにより、早寝、早起き、朝ごはんをはじめとして、あいさつの励行などの基本的な生活習慣が向上している。家庭学習の習慣もよくなっている。就寝時刻が遅くなっていることが課題である。
学習習慣については、平成26年度の小中一貫開校を見据えて、小学校のみならず、中学校とも協議を重ねて9年間を見通した学習習慣の確立を目指している。
- 「開かれた学校」－家庭・地域・保護者との連携
「学校だより」「小中一貫だより」「きめ細かな指導だより」「学級通信」等の発信により保護者に情報を伝えている。また、学校支援ボランティアについては、今年度も一層その活動が充実している。上記の表に示したように、その活動は多方面の授業やさまざまな活動に広がっている。今年は登録が170人、関係した授業は43を数えた。こうしたボランティアの方々を通して地域へ向かって学校情報を公開・発信したり地域の声も聞きとりできたりしている。これからも家庭・地域・学校の連携を深めていきたい。

7 来年度の改善策

今年度の取り組みを継続しながら、次の4点を重点目標として取り組む。

- 「確かな学力」－基礎基本の定着と学力の向上
特設タイムを利用した「読み・書き・計算」等の基礎力の育成。
中学校との9年間を見通した基本的な学習習慣の定着を図る。
校内研究と授業研究会を通じた指導方法改善
- 「心の教育」－教育相談の体制作りと充実
児童や保護者が気軽に相談できる教育相談体制をつくる。
ふれあい道徳をはじめとした道徳教育や人権教育の充実。
あいさつとことばづかいの指導の充実。
- 「生きる力の育成」－基本的な生活習慣、学習習慣の定着
「家庭教育指針」により家庭と連携しながら、基本的な生活習慣の定着をめざす。
早寝、早起き、朝ごはんを並び、家庭学習習慣の定着をめざす。
体験的活動や勤労奉仕的な活動の実践に取り組む。
- 「開かれた学校」－家庭・地域・保護者との連携
学校支援ボランティアの更なる充実を図りながら開かれた学校の取り組みを進めていく。
授業参観やフリー参観の機会を生かして保護者、地域に学校を開く。
学校からの文書、ホームページ等による情報発信により、家庭、地域、学校の連携を進める。